# 銀の道探訪マップ③

## 美郷町九日市～三次市布野町編

飯南町北野

第一夜を九日市で過ごした銀輸送隊は、早朝に出立し酒谷の口留番所を越え、赤名の宿に向かう。赤名の宿は出雲と備後の接点として栄え、今でも宿場町らしい景観を残している。

赤名で馬替えをした一行は、なだらかな道をしばらく進んだ後、いよいよ赤名峠にさしかかることになる。当時の道筋は赤名トンネルの手前から山に入る山道がルートとなっていた。赤名峠へは明治になってできた旧国道を地元の人々が草刈りし、乗用車で行けるよう努めている。

**この区間の主な見どころ**

- 西の原古道 ・九日市本陣跡
- ふるさとおおち伝承館
- 橋台岩 ・シャクナゲ
- 酒谷の名水 ・名号石
- 酒谷番所跡
- 江戸時代の農家 ・赤名湿地
- 長者原古墳 ・赤名の道標
- 毛利と尼子の古戦場
- 赤穴八幡宮（丹塗箭神話）
- 瀬戸の一里塚跡
- 北野の馬頭観音 ・赤名峠
- 万右衛門の墓 ・熊地蔵

## 峠の文化

広辞苑には、峠はもともと「たむけ」という言葉が転じたもの、と記述されている。峠を往来する人が旅の無事を祈って、道端の道祖神に柴などをたむける、このような姿から峠という言葉が生まれた。

峠は村境になっていることが多く、「サイの神」がまつられることもある。この神様は他国から疫病や悪霊が進入するのを防ぐ、あるいは旅の行路の安全を祈願する旅人を守ると信じられていた。

上赤名の銀山街道から赤名峠を望む

赤名峠の案内看板

中世以降になってくると、お地蔵さんが峠に置かれるようになる。お地蔵さんは子どもの守り神として良く知られている。やがてこれが、「子宝の神」さらには「豊作の神」として、発展解釈されていくようになり男女像や陰陽石なども置かれるようになっていく。このように、峠にはさまざまな信仰文化が見られる。

## 丹塗箭（にぬりや）神話

赤名地内にも、出雲神話に関係する伝説がいくつか残されている。「丹塗箭神話」もその内の一つである。

> 出雲と備後の国境にそびえる女神山（めんがめやま）に玉依姫（たまよりひめ）という美しい姫が住んでいた。
>
> ある日一本の美しい丹塗りの矢が飛んできて、姫がそれを拾いあげた。
>
> この矢こそ大山咋（おおやまくい）という神様の化身で、そのみたまが通じて姫が身ごもり、赤穴山で別雷神（わけいかづちのかみ）を産んだ。

というあらすじで、赤穴八幡宮には、モニュメントが建立されている。

その他にも出雲神話に登場する地名が、赤名周辺にたくさん残っている。

赤穴八幡宮の境内にあるモニュメント

## 赤名の半夏市（はんげいち）

「半夏」とは夏至から十一日目に当たる日で、半夏（カラスビシャク）という名の薬草がこの時期さかんに生えることから、そう呼ばれるようになった。この日は畑などに入らないようにという、農耕を慎む風習もあり、農家では数日間休んで、餅をついたり、寿司や麦こがし、まんじゅうなどを作ったりして、骨休めをしたという。

赤名ではこの日に大きな牛市が開かれ、近在の村々から多くの人々が集まりにぎわっていた。現在もその伝統が引き継がれ、半夏市が毎年七月始め頃開催されている。

赤名の半夏市

## 赤名湿地

赤名地区福田に湿地性植物の群落が見られる。島根県下では最大規模といわれるハンノキ林が広がり、その下にミツガシワ、リュウキンカ、サギソウ、トキソウ、ハンカイソウ、ヒツジグサなどおなじみの湿地性植物が群生している。

湿地帯には歩道が整備されており、季節折々の花を楽しむことが出来る。

尚、この湿地帯は福田地域の人々のボランティア活動によって管理されている。訪れる人は、環境保護に配慮することを心がけて欲しい。

ミツガシワ
〈リンドウ科〉
高地の湿原に多い多年生の水草。

赤名湿地

### 主な連絡先

| | |
|---|---|
| 飯南町役場赤名庁舎 | 0854-76-2221 |
| 飯南町教育委員会 | 0854-72-1354 |
| 島根県中山間地域研究センター | 0854-76-2025 |
| 道の駅赤来高原 | 0854-76-2007 |

### 銀の道関連ホームページ

江の川文化圏会議　銀の道探訪
http://www.chusankan.jp/gonokawa/roman/HISTORY/
元祖・銀山街道の草刈り＆発掘
http://bio-region.com/akatonbo/ginzan.html


制作　国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所
問い合わせ先：「銀の道交流会事務局」TEL 0855-87-0775（Fax兼用）

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。（承認番号 平18中複 第150号）

**①西の原古道**
沢谷川沿いには、岸辺の路肩崩壊を防ぐために植えられた、カシやツバキが、今も銀の道と共に残っている。

**②九日市の本陣跡**
早朝大森を出発した輸送隊は、日暮れ時に九日市に着く。第一夜を迎える宿場には、本陣「原田屋」と脇本陣「鍛冶屋」があった。

**③橋台として使われた岩**
かつてここに土橋があった。その橋の橋台として利用されていたという岩が、新しい橋の下に残されている。

**④酒谷の口番所跡**
出雲との国境となるこの番所には、他の番所ではあまり例のない、門が道をまたぐようにして建てられていたという。

**⑤下赤名の古道**
街道は下赤名から出雲の国に入る。当時の道が残っており、古道脇には江戸時代のものと思われる農家がそのまま残っている。

**⑥長者原古墳**
「駒競（こまくらべ）古墳」「京楽（きょうらく）古墳」とも呼ばれている。銀を運ぶ一行も、この古墳のそばを通って行った。

**⑦赤名の道標**
銀の道は赤名で出雲街道と合流する。街道脇には、1856年代に建てられた道標が残っている。

**⑧瀬戸の一里松跡**
広島と松江の中間点にあたる瀬戸には一里松があった。松くい虫被害のため切り倒され、今は民家の裏にその切り株が残っている。

**⑨北野の馬頭観音**
街道は、いよいよ赤名峠にさしかかる。その坂の口に、旅人の行路安全を祈る馬頭観音が残されている。

**⑩赤名峠**
出雲と備後の国境で、昔から難所として知られていた。当時の街道は、赤名トンネル手前から急な坂を上るように進んでいた。

**⑪万右衛門の墓**
肴売り万右衛門が磯五郎に殺され金を奪われた事件は、現場が藩境で天領にもからみ、解明が難しかったという記録が残っている。

**⑫熊地蔵**
言い伝えでは、熊を飼育していた人が建立したという。地蔵の場所は、一里松があった所で、辺りには古道が昔のまま残っている。

## 凡例

| | |
|---|---|
| 銀の道（車）※1 | 車輌迂回路 |
| 銀の道（歩）※2 | おもな施設 |
| 道標・石碑 | 駐車場・駐車可能場所 |
| 常夜灯 | トイレ |
| 地蔵・石仏 | トイレ（車イス可） |
| 辻堂・祠 | レストラン・食堂 |

※1 銀の道に最も近いと思われる車道（道路幅も狭く通行困難な部分あり）。※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む（家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり）。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。
交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。

2006.4

複製不許可